

【参加メンバー●プロフィール】

●立花文穂 (アーティスト/グラフィックデザイナー)
1968年 広島県生まれ。文字、紙、本を主な素材やテーマに作品を制作し、国内外で発表。東京TDC賞やブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレグランプリ(チェコ)を受賞するなど、グラフィックデザインの分野でも評価が高い。個展に「デザイン 立花文穂」展(ギンザ・グラフィック・ギャラリー、2011年)他、グループ展にMOTアニュアル2008「解きほぐすとき」展(東京都現代美術館、2008年)、「風穴」展(国立国際美術館、2011年)などがある。2007年より自ら責任編集とデザインを手がける不定期刊行物『球体』を始め、現在6号まで刊行している。著書に『かたちのみかた』、『Leaves 立花文穂作品集』(誠文堂新光社刊)。女子美術大学教授。

●荒木信雄 (建築家)
1967年 熊本県生まれ。1990年 西日本工業大学建築学科を卒業。1997年 The Archetype を設立。現在、西日本工業大学客員教授。住宅、オフィス、ギャラリー、ショップなど多岐にわたる設計を行う。クライアントには国内外で活躍するクリエイター、アーティストのほか、個人から企業まで幅広い繋がりをもつ。actp.co.jp

●石田千 (作家)
1968年 福島県生まれ、東京都育ち。國學院大学文学部卒業。2001年『大踏切書店のこと』により第一回古本小説大賞受賞し、執筆活動をはじめ。2016年『家へ』で第三回鉄犬ヘテロピア文学賞受賞。近著に『箸もてば』(新講社)がある。

●高山なおみ (料理家/文筆家)
1958年 静岡県生まれ。レストランのシェフを経て料理家に。文筆家としての顔も持つ。著書に『日々ごはん①~⑩』、『帰ってきた日々ごはん①~③』、『料理=高山なおみ』、『ウズベキスタン日記』など多数。絵本に『とももどだっく』、『くんじくんのぞう』(共に絵・中野真典)がある。神戸在住。http://www.fukuu.com/

●長崎訓子 (イラストレーター)
1970年 東京都生まれ。書籍の装画や挿絵、絵本、漫画、映画に関するエッセイなど多方面で活動中。漫画の作品集に『Ebony and Irony 短編文学漫画集』、『MARBLE RAMBLE 名作文学漫画集』(第19回文化庁メディア芸術祭マンガ部門審査委員会推薦作品)(ともにパイインターナショナル)がある。女子美術大学准教授。

●齋藤圭吾 (写真家)
1971年 東京都生まれ。スタジオ勤務を経て、独立後、雑誌や書籍、広告など様々なメディアで活躍している。主な仕事に『新装・高山なおみの料理』(角川書店)、『ポタニカ問答帖』(京阪神エルマガジン社)など。写真集に『melt saito keigo』(立花文穂プロ.)。

●ワタナベケンイチ (イラストレーター)
1976年 東京都生まれ。1998年 HB ファイルコンペ特別賞。2000年 HB ファイルコンペ露技リュウジ賞。雑誌や書籍の挿絵などを中心にワークショップなどもしている。右利き。

●ナイジェルグラフ (グラフィックアーティスト)
1976年 東京都生まれ。広告、CD ジャケット、書籍などを手掛ける。主な作品に雑誌、POPEYE の表紙イラストや企業会社の手描きロゴなど。またファッションブランドとは数々のコラボを発表している。http://www.naijelgraph.com

●テニスコート (コントユニット)
2003年 武蔵野美術大学在学中に、神谷圭介、小出圭祐、吉田正幸の3人で結成。シニカルな視点から哀愁を帯びた古典的とも新鋭的ともとれるナンセンスコメディを展開したりする。http://tenusugawa.com

●中野浩二 (彫刻家)
1977年 岩手県生まれ。2000年 東京造形大学卒。一貫して“人体”をモチーフにした彫刻作品を発表。主な個展に、『現れた骨格』(2010、ギャラリー KINGYO)、『NAKANNO KOJI SCULPTURE』(2011、roid works gallery、gallery FuTaBa)、『Quick』(2010、XYZ collective)。

●コンタクトゴonz (パフォーマンス集団)
2006年 大阪市にて結成し、国内外で活躍するパフォーマンス集団。肉体の衝突を起点とする独自の牧歌的崇高論を構築し、即興的なパフォーマンス作品や、映像、写真作品の制作、マガジンの編集などを行う。2011年より公益財団法人セゾン文化財助成対象アーティスト。

●片貝葉月 (アーティスト)
1983年 神奈川県生まれ。武蔵野美術大学大学院空間演出デザインコースを修了後、2015年より作家活動を開始。自らの身体を媒体として生まれる事象をテーマに、身近な素材や即興的な手法を用いた作品を制作している。http://hazukikatagai.com

●藤丸豊美 (アーティスト)
1987年 大分県生まれ。2010年 女子美術大学ヴィジュアルデザイン専攻卒業。編み物を中心にした作品を制作。2017年 Cite Internationale de Arts(パリ)にて2ヶ月の滞在制作、展示。http://fujimaruoyomi.com

●葛西絵里香 (アーティスト)
1982年 神奈川県生まれ。女子美術大学短期大学部専攻科を修了。「彫る」という行為から生まれる表現の可能性を追求し、微細な線や網点・文字を彫り込んだ版による作品を制作している。2014年、ヨコハマトリエンナーレ2014に参加。

●伊勢克也 (アーティスト)
1960年 岩手県生まれ。自然や風景、人工物など、あらゆるかたちをテーマに作品を制作。2012年からスタートしたポーランドでの日本庭園プロジェクト「Ogród japoński w Katowice」を継続中。作品集に『家について』(立花文穂プロ.)、『家々』(六耀社)がある。女子美術大学教授。

●島 武実 (作詞家/音楽家)
1946年 東京都生まれ。1978年に PLASTICS に参加。日本のバンドとして初の世界リリースとワールドツアーを行う。作詞家として『硝子坂』(高田みづえ他)、『わな』(キャンディーズ)など多くのヒット曲を手がける他、小説、音楽プロデューサー、クリエイティブ・ディレクターなど様々な分野で活躍。

●仲條正義 (グラフィックデザイナー)
1933年 東京都生まれ。1956年 東京藝術大学美術学部図案科を卒業後、資生堂宣伝部、デスカを経て1961年 仲條デザイン事務所設立。主な仕事に40年以上にわたった資生堂『花椿』誌のアートディレクション、資生堂バーラーのロゴタイプ及びパッケージデザイン、『暮しの手帖』誌の表紙イラストなどがある。女子美術大学客員教授。

STATION TO STATION

2017/11/10(金)

↓ 休館日=月曜日
(祝日の場合は翌日)12/28→1/3

↓ 入場無料(一部有料イベント)

2018/1/21(日)

12:00

↓ 12/14(木)→24(日)は
21:00まで開館。

19:00

アートエリアB1

http://artarea-b1.jp/

主催=アートエリアB1
企画制作=大阪大学21世紀懐徳堂/ NPO法人ダンスボックス
助成=損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」
(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)/大阪府 不
/芸術文化振興基金
協力=京阪電気鉄道(株)

メインアーティスト●
立花文穂
(アーティスト、グラフィックデザイナー)

参加メンバー●
荒木信雄
(建築家)

石田千
(作家)

高山なおみ
(料理家、文筆家)

長崎訓子
(イラストレーター)

齋藤圭吾
(写真家)

ワタナベケンイチ
(イラストレーター)

ナイジェルグラフ
(グラフィックアーティスト)

テニスコート
(コントユニット)

中野浩二
(彫刻家)

コンタクトゴonz
(パフォーマンス集団)

片貝葉月
(アーティスト)

藤丸豊美
(アーティスト)

葛西絵里香
(アーティスト)

伊勢克也
(アーティスト)

島 武実
(作詞家、音楽家)

仲條正義
(グラフィックデザイナー)

他



7 鉄道芸術祭



【会場アクセス】
京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコース ●地下鉄「淀屋橋駅」「北浜駅」から徒歩約5分 ●「なにわ橋駅」①出入口が最寄りとなります。 ※直通のエレベーターはございませんので、車いすでお越しの場合は、あらかじめアートエリアB1までご連絡いただきますようお願いいたします。
【お問い合わせ】
アートエリアB1事務局
E-mail: mail@artarea-b1.jp / TEL: 06-6226-4006 (12:00~19:00)
休館: 月曜(祝日の場合は翌日)、12/28~1/3

京阪電車 なにわ橋駅
アートエリアビーワン
〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-1
京阪電車なにわ橋駅地下1階

STATION TO STATION

2017/11/10(金)

休館日=月曜日
(祝日の場合は翌日)12/28→1/3
入場無料(一部有料イベント)

2018/1/21(日)

12:00
12/14(木)→24(日)は
21:00まで開館。

19:00

19世紀初頭、輸送手段の主役である鉄道は、大陸を網羅する線路や車両の規格によって、モノゴトを簡略化する工業化・効率化という世界共通の目的をもたらし、その運行状況を表す「ダイヤ」となり、より厳格な時間概念とマナーやルールに基づく規範を形成し、人々の振る舞いを規定・規制するようになり、また、駅名やサイン計画、アイコンといった情報伝達に関する識別の基準や記号化は、人々の認知と視覚表現の基本になると同時にそれらを次々と更新しました。

鉄道芸術祭vol.7では、「鉄道と身体知覚・行動」をテーマに、それらに重要な役割を果たしていると考えられるグラフィックデザインや印刷メディアに着目します。メインアーティストには、文字、紙、本を主な素材やテーマに作品を展開するアーティストでグラフィックデザイナーの立花文穂を迎え、展覧会自体を立花が編集とディレクションを担う雑誌「球体7号」として表現します。『美術・写真・ことば』…さまざまな表現をくちやっつとまるめた紙塊である」と謳う「球体」を、展覧会として実現

アートエリアB1 <http://artarea-b1.jp/>

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-1 京阪電車なほ橋駅地下1階

【ワークショップ】

「電車になってみよう」
様々な風景の中を駅から駅へ、街から街へと走り抜ける電車。このワークショップでは、イラストレーターのワタナベケンイチさんと一緒に、自分が電車になって、からだ全体で想像して表現してみよう。
日時=11月5日(日) 午前の部 10:30~12:30 / 午後の部 13:00~15:00
講師=ワタナベケンイチ(イラストレーター)
参加費=500円+電車賃実費負担(材料費込み)
定員=各回15名程度(要事前申込、先着順)
対象=3歳以上(未就学児の方は、保護者と一緒にご参加ください)
※電車に乗って、街歩き、散歩を予定しています。電車賃は、実費をご負担ください。(雨天決行)

【オープニングトーク+ライブ】

「立花文穂、STATION TO STATIONを語る」
鉄道芸術祭 vol.7「STATION TO STATION」では、メインアーティストの立花文穂と雑誌「球体」の参加メンバーが京都と大阪、ポルトガルのポルトとリスボンを鉄道で旅することから企画展が始まりました。オープニングでは、その発想の源となった天正遣欧少年使節やリサーチの旅、そして異なる都市、文化、国、時代を巡る「STATION TO STATION」について本展運営委員で出品作家でもあるコンタクトゴンゾの塚原悠也を聞き手に語っていただきます。さらに、日々の風景を時に熱く、時に優しく歌う畑俊行によるソロユニット「太陽バンド」によるミニライブを開催します。
日時=11月11日(土) 14:00~16:00
定員=50名程度(当日先着順、入退場自由)
ゲスト=立花文穂(鉄道芸術祭 vol.7メインアーティスト)
聞き手=塚原悠也(コンタクトゴンゾ、アートエリアB1運営委員)
ライブ=太陽バンド(www.taiyo-band.com)

【電車公演】

「電車と食堂とコントと」
電車公演は、走行する電車を舞台にしたプログラムです。近年、国内では希少となった食堂車やお座敷列車へのオマージュを込めて、本公演では、料理家、文筆家として活躍する高山なおみさんとシニカルな視点から哀愁を帯びたナンセンスコメディを展開するコントユニット、テニスコートがゲストとして乗車し、一回限りの特別電車「電車と食堂とコントと」を、発車します。
日時=12月3日(日) 受付 13:30~14:00 / 乗車 14:25~16:08
出演者=高山なおみ(料理家、文筆家)、テニスコート(コントユニット)
参加費=前売3,000円/当日3,500円(特別切符、限定冊子付)
未就学児無料(特別切符、限定冊子は付きません)
定員=120名(要事前申込・先着順)
受付場所=京阪電車中之島線「中之島駅」改札口外
会場=京阪電車貸切電車内
[車内パフォーマンス / 14:25 中之島駅発(樺葉駅折り返し)~16:08 なほ橋駅着]
※改札口外での受付となりますので、各駅から「中之島駅」までの運賃は別途必要です。

【使節団トーク】

「車窓の旅~ポルトガル編」
日本が戦乱の世から統治へと向かう時代、欧州の文化や近代技術を日本へ伝えるため4名の少年と随行者からなる「天正遣欧使節」がポルトガルに派遣されました。本展では、メインアーティストの立花文穂と建築家の荒木信雄、作家の石田千、料理家で文筆家の高山なおみが現代の使節となりました。この使節団トークでは、それぞれの視点から見つめたりサーチ旅行と展覧会について、お話を伺います。
日時=12月3日(日) 16:30~18:30
定員=50名程度(当日先着順、入退場自由)
ゲスト=荒木信雄(建築家)、石田千(作家)、高山なおみ(料理家・文筆家)、立花文穂(鉄道芸術祭 vol.7メインアーティスト)

【お申し込み・お問い合わせ】

●お申し込み方法=メール、お電話、アートエリアB1ウェブサイトのチケット予約フォームよりお申し込みください。[ご希望のプログラム名、日時、参加者氏名、参加人数、当日連絡が取れる連絡先]をお知らせください。
●お申し込み・お問い合わせ先= E-mail: mail@artarea-b1.jp (件名に「イベント予約」とご記入ください) TEL: 06-6226-4006 (受付時間 12:00~19:00、月曜(祝日の場合は翌日)休館) 予約フォーム: <https://secure4092m.sakura.ne.jp/artarea-b1.jp/ticket/>

文字という言葉がはじめて使用されたのは、車の軌幅を統一し、書の文字を統一した、という意味の中国の碑文があるといわれています。車と文字は、古くからとって大きな文化で、車が発展したかたちの鉄道は、文字と運動しているといえる。車は考えた。そのことに思いを馳せながら淀屋橋から出町柳まで列車のいちはばんに座って往復してみた。地下から地上へ抜け出ると右に大阪城がちらりと見えた。あの天正遣欧少年使節の4人は、迎えてもらえなかったんだな。2本のレールが突きつきへとその視線の先から曲線を描きながら現れてくる。2本の曲線が描く軌道は、文字の線が引かれる様子に似ていた。線路、とはよく言い当てられていて感じた。目の前の車掌さんが長細い蛇腹の時刻表を手のひらに開いてのせて見ている。たくさん線の線が交差して紙面が線であらう。

淀川ともうひとつの川を渡る赤い鉄橋がふたつづく。渡るとき、だいたい伏見稲荷大社のたくさん鳥居をくぐったときのことを思い出した。

それにしてもカーブが多い。駅のホームも曲がっているところが多い。京阪電鉄は、鉄道を地形に合わせて敷いていると聞いたことがある。逆に、他の鉄道会社は、できるだけ直線距離にするように敷いているらしい。そういえばトンネルも少ないし、山の麓に沿ってカーブしている。川の水の象形は、3本の屈曲した線が並んでいる。その曲線に寄り添うように線路が敷かれている。巡っている。

火と水は、古来、始源の生活の中で最も恩恵を受けていると読んだことがある。水は、沈静なものとして表現され、火は、活動的とされてきた。水、川とすれば、火は、鉄道といえる。ふたつは、切っても切れない。ケイハンの始点の淀屋橋・中之島は、淀川の川沿いと中洲にあるし、終点の出町柳には、鴨川が三つ角洲には下鴨神社がある。ほくが行ったときには、御手洗祭という水のお祭りをやっていた。これから4人で行くポルトガルのリスボンやポルトにもおきな川がそれぞれに流れていると聞く。鉄道と川には、きつとなにかの縁があるのではないかと推測する。

また、同じ赤い鉄橋をこんどは反対方面へふたつづく。ほくが小さいころ、広島で、学校に行く時いつも親父は、「いってかえり」と送り出してくれた。いってらっしゃいじゃなくて。日は暮れて、左の窓に大阪城は、もう見えなかった。「ただいま。」

ステーショントウステーションは、デヴィッド・ボウイのアルバムタイトルから引用した。駅から駅へ、都市から都市へ、文化から文化へ、ふたつのステーションを行って帰り、往復してみる。ふたつある。両方ある。ほくと鉄道をつなぐ旅を「球体7号」に乗って、さあ、出発進行!!

『球体』責任編集 立花文穂

●「球体」とは、「美術・写真・ことば」…さまざまな表現をくちやっつとまるめた紙塊である。立花文穂が責任編集とデザインを手がけた2007年から始まった不定期刊行物。現在、6号まで発行。

●アートエリアB1とは…京阪電車中之島線建設中の2006年から、企業・大学・NPO法人が協同で、都市空間における駅の新たな可能性を模索する「中之島コミュニケーションカフェ」を実施。これを継承して2008年10月中之島線開業を機に、なにわ橋駅の地下1階コンコースに「アートエリアB1」を開設しました。ここでは様々なプログラムを実施し、「文化・芸術・知の創造と交流の場」となることを目指しています。

※会期中には、トークやギャラリートーク等、多彩な関連プログラムを展開します。最新情報は、アートエリアB1ウェブサイトにてご確認ください。
※会期中、別プログラムの開催に伴い、一部の展示をご覧いただけない場合があります。詳しくは、アートエリアB1までお問い合わせください。
※内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。
※事前申込制のプログラムは、定員に達し次第、受付を終了いたします。

鉄道芸術祭

- 立花文穂 責任編集
- 球体7号
- メインアーティスト ● 立花文穂 (アーティスト、グラフィックデザイナー)
- 参加メンバー ● 荒木信雄 (建築家) 石田千 (作家) 高山なおみ (料理家、文筆家)
- 長崎訓子 (イラストレーター) 齋藤圭吾 (写真家) ワタナベケンイチ (イラストレーター) ナイジェルグラフ (グラフィックアーティスト) テニスコート (コントユニット) 中野浩二 (彫刻家) コンタクトゴンゾ (パフォーマンス集団)
- 片貝葉月 (アーティスト) 藤丸豊美 (アーティスト) 葛西絵里香 (アーティスト)

- 伊勢克也 (アーティスト) 島武実 (作曲家、音楽家) 仲條正義 (グラフィックデザイナー) 他